

青年国際交流事業 事後活動推進全国代表者会議
日本青年国際交流機構 第 84 回全国推進会議
議事録

日 時：令和 5 年 9 月 29 日(金)14:00～18:00, 30 日(土)08:15～10:45

会 場：ANA クラウンプラザホテル米子 2F 飛鳥の間

出席者：（内閣府）中田国際調整官、伊藤参事官補佐

（IYEO） 長末会長、本田副会長（戦略）、佐々木副会長（都道府県）、白
木副会長（社会貢献・財政）等

◆資料説明 資料格納先

https://drive.google.com/drive/folders/1C3q9H6Uqs_a87_tDHwXj5uqc_t4CzyPb

内 容：

I. 開会挨拶

II. 内閣府青年国際交流事業について：内閣府 伊藤参事官補佐

①令和 5 年度 内閣府青年国際交流事業について(資料 1)

1. 令和 5 年度事業の実施方針について

日中事業のみオンラインで 11 月 19 日に実施予定だが、それ以外の日韓、育成、東南アジア青年の船、世界青年の船については対面交流を復活して実施。

- 日韓はすでに招へいを成功裏に終えた。
- 東南アジア青年の船事業はオンラインと対面での交流を実施予定。日 ASEAN 友好協力 50 周年の節目の年でレセプションの実施を予定。
- 世界青年の船事業は、地域実践活動、地域訪問活動を組み合わせた新プログラムとして実施予定。初年度の今年のプログラムを成功させるため準備を進めている。

2. 令和 5 年度地方プログラムについて

- 育成、日韓は外国青年のみが地方へ往訪する形で、東南アジア青年の船は日本青年・外国青年がともに地方へ往訪する形、世界青年の船は日本青年・外国青年が船に乗ってともに地方へ往訪する形で実施予定。
- 受け入れ先は育成：岩手県、和歌山県、日韓：青森県、富山県、東南アジア青年の船：山形県、山梨県、愛知県、長崎県、鹿児島県、世界青年の船：高知県(実践活動)、兵庫県、京都府(訪問活動)。
- 各受け入れ地域の IYEO の皆様におかれては、準備にご尽力くださり感謝申し上げます。

3. 令和 5 年度推進大会、ブロックイベントについて

- 例年と大きく変わったところとして、財政的な制約によりやむを得ずブロックイベントの開催数が半減する形となった。
- 今年度は北海道・東北ブロック、東海ブロック、中国ブロック、九州ブロックで開催。
- ブロックイベントに付随して実施していた関係者連絡会議については、ブロックイベントを開催しないブロックは近隣のイベント実施ブロックと合同で実施する予定。(中国・近畿：10月、九州・四国：11月、北海道東北・北信越：1月、東海・関東：3月)。都道府県担当者を交えてぜひ様々な議論をしていただきたい。

② 令和5年度日本参加青年の募集・選考の結果及び今後の広報について(資料2)

1. 令和5年度日本参加青年の募集・選考方法について

- 一部変更はあったものの、基本的には令和4年度と同様の募集・選考方法にて実施。
- 4月10日に募集を開始し、期間を延長して1か月と2週間ほど募集を実施した。
- 以前は都道府県で1次選考を行っていたが、内閣府を窓口として一括で募集を実施。
- 全事業について併願を可能とした。参加機会の確保という意味でも有効だったと思っている。
- 5月中旬から6月上旬にかけて、オンラインで選考。事業ごとに選考方法に違いはあるが、面接を重視しながら選考を進めた。

2. 令和5年度青少年国際交流事業の応募状況

- 事業によって多少違いはあるが、全体として425名、倍率にして2.19倍の応募があった。多くの方に応募いただいたが、来年度以降、もう少し応募者を増やして行けたら理想的である。

3. 応募者及び合格者の居住地(都道府県別内訳)

- 応募者及び合格者の都道府県別居住地内訳について、すべての都道府県ではないが万遍なく応募いただいている。首都圏の割合が多くなっているが、選考の過程では地方の方々の参加機会の確保の観点も加味して検討している。

4. 令和5年度の広報活動実績

- 全都道府県・政令市・大学・青少年団体にチラシを送付。
- 今年度初めてSNS(X:旧Twitter、Instagram、Facebook)にて約15日間有料広告を実施。目標1,500,000回表示、1,000クリックを大きく上回る2,434,475回表示、2,864クリックを達成した。フォロワー以外にアプローチできたことは大きかったと評価している。
- 令和4年2月にInstagramのアカウントを開設、シェアをする仕組みがない中、フォロワー数増加に向けて募集時にはインタビュー動画などを毎日配信した。フォロワー数は昨年9月時点から比べて約150名増え、約250名となった。参加青年の候補者となるような方々が多くフォローしてくださっている傾向にあるようだ。Instagramは若い利用者が多いので、実際に応募してくれる人たちにより多くリーチできるように活用できればと思っている。
- X:旧Twitterは、フォロワー数が1年間で約150人増、昨年10月の代表者会議内で示した目標500人を超える、フォロワー数578名を達成。一定数の興味を持つ方には情報が届いていると思う。引き続きフォロワー数700人を目標に運営したい。
- Facebookアカウントも運用しており、3,000人近いフォロワーがいる。参加青年も多く活用していると思われるので、こちらもしっかりと発信していきたい。

5. 募集に係る広報効果

- 応募青年に応募フォームにて応募したきっかけについてアンケートをとったところ、「既参加青年からの紹介」が14%と非常に大きい割合を占めている。実体験を生言葉で紹介することが青年たちに響いていることが見て取れる。
- SNSは現時点では大きな割合を占めていないが、これまでと違う青年たちにもアプローチしていくことが必要と考えているので引き続き発信を強化したい。

6. 今後の広報活動の方針

- 現状、SNS のフォロワーは着実に増えているが、それをきっかけに応募をした人はまだそこまで多くはない。きっかけとしては、既参加青年の口コミや知人からの紹介、ポスター、リーフレットが多い。
- これらの現状を踏まえ、新規の青年にアプローチしていくために SNS の活用を強化すること、応募時期に注力するだけでなく、募集期間以外にも主要広報チャネルである口コミや紙媒体広報資料の活用等を通じて、内閣府事業を知ってもらう機会を作ることが必要。
- SNS の活用強化策としては、内閣府事業の実施状況の投稿やPR動画の作成等が考えられる。
- また、主要広報チャネルの強化としては、募集期間を前倒しして春休みに入る前に募集開始し、長期間募集を行うことで、報告会などで来年度事業の募集の宣伝を効果的に行うこととするほか、募集期間外の広報強化のため、通年で配布できるリーフレットの作成等に取り組みたいと考えている。
- 来年度は、SNS フォロワー数増加、(X:700 人、Instagram:400 人)、全事業の平均倍率 2.5 倍以上を目標として取り組みを進めてまいる。

③ 令和 6 年度内閣府青年国際交流事業の方向性について(資料 3)

- 9 月 21 日に全ての自治体と IYEO 向けに令和 6 年度事業の説明会を実施した。
- 世界青年の船事業:来年度の寄港地を決めるにあたって、募集の概要について説明を行った。10 月 23 日締切で希望する自治体からの提案を受け付け、11 月中には受入地域を決定したい。
- 育成、日中、日韓、東ア船:11 月頃に受入れ希望調査を実施、1 月ごろ受入地域を決定したい。
- 参加青年の募集は、引き続き内閣府で一括募集する形としつつ、2 月から 5 月に前倒しして長期間行うこととしたいと考えている。
- 東ア船は海外航路に出ることも視野に入れて調整を行う予定。
- 世界船:12 月以降に内閣府と受入主体で地域実践活動プログラムの具体化に向けて動き出し、1 月から 2 月には今年度事業として新プログラムを実際に回すので、来年度に生かせる部分を反映させながら進めていきたい。4 月のなるべく早い段階で、受託業者を決定して準備を本格化させていきたい。
- (資料 4)提案要領より:都道府県は協力団体(具体的には IYEO)と協力しながら受入を行っていただきたい旨を伝えており、IYEO の皆さんからもプログラム内容についてご提案いただきながら、一緒にプログラムを作っていただけるとありがたい。
- 今年度に比べると、人数規模と訪問活動、実践活動の日数をやや縮小している。
- 予算規模は令和 5 年度予算額を参考に検討いただきたい。
- 受入れ都道府県決定後、実行面、予算編成の都合上、提案内容を大きく調整させていただくこともあるので、提案がそのまま実現するわけではないということをご承知おきいただきたい。

④ 質疑応答

【滝川育成担当幹事】

育成事業について、派遣直前にもかかわらず受託団体から日程共有や食事の手配などの情報共有が不十分であるとの声が副団長や団員から入っている。受託団体とどのような調整を行っているのか、今後のよりよい事業構築のためのお考えをお聞かせいただきたい。

【伊藤参事官補佐】

本来派遣先での活動準備に集中していただきたいタイミングで不安や懸念を持たせてしまっていることはお詫びしたい。4年ぶりの事業ということで、内閣府の担当者も派遣業務の経験がなく、受託業者もこの事業の受託が初めてであり、どのように進めていくか手探りの部分もある中で、受託業者と内閣府が話を進めていく過程で手落ちがあったことは否めない。来年度どの事業者が受託するかはわからないが、事業の質を維持するために内閣府がクオリティコントロールをしていくことが大事だと痛感している。今年度に関しては1週間後に派遣ということで団長・副団長にご負担をおかけしてしまうが、出発前に問題がないように準備を進めていきたい。

【中田国際調整官】

当初のスケジュールに比べるとかなり受託業者の決定が遅くなってしまい、そうした流れの中で事前研修だけでなく本体事業の方にも影響が出てしまっている状況。副団長とも協力しながら、団員のモチベーションが下がらないようにしっかりとコミュニケーションをとっていききたい。

【國分静岡県会長】

来年度の参加青年募集を2月から5月にかけて行うとのことで、これまでコロナ禍では募集期間が短いため内閣府一括選考だったが、募集期間が長くなったにもかかわらず内閣府一括先行する理由は何か。

【伊藤参事官補佐】

従来都道府県の選考を復活させてほしいというご意見があることは私たちも承知しているが、内閣府事業の選考の補助については「法定受託事務」にはあたらず、法的根拠のない事実上の措置として実施をしてもらっていた状況。コロナ禍をきっかけに内閣府一括募集を行うことになり、都道府県での選考が3年以上途絶えてしまった中で、都道府県に改めて選考をお願いするのは極めて難しい状況であり、オンライン選考の知見の蓄積もあるので今後も内閣府で一括募集をする形で進めたいと考えている。都道府県 IYEO の皆さんを中心に、自分たちの都道府県からどんな参加者がいるかわからないと困るといった話をいただいているので、IYEO、都道府県の担当者には、その都道府県から参加する青年の情報提供をさせてもらっている。そうした情報をもとに表敬訪問や報告会を行っている自治体もあると聞いている。

【中田国際調整官】

コロナ禍で内閣府と都道府県の担当課とのコミュニケーションも減っていた部分もある。今回の令和6年度事業に係る説明会で都道府県とIYEOとの橋渡しのこともできたように感じている。今後も自治体との連携を図っていきたい。

【高木東海ブロック幹事】

来年度の目標として SNS のフォロワー数について説明されたが、この数字の根拠と、参加青年がどれだけ広報に関わっているかお聞きしたい。また通年で広報できるリーフレットは効果的なので、一緒に力を入れて作ることができたらと思っている。

【伊藤参事官補佐】

フォロワー数については必ずしも今年度参加青年見合いで増やさないといけないということは考えておらず、数値的な根拠がそこにあるわけではない。着実に増やすということに尽きる。今年度参加青年については、募集期間を前倒しすることで、次年度に向けて周囲への口コミやポスター掲示、チラシの配布など様々な形で協力いただきたいと思っている。

III. 日本青年国際交流機構 (IYEO) の活動について

定足数確認：幹事会構成員 29 名及び都道府県 IYEO 代表者 47 名の計 76 名
定足数過半数 39 名、本日出席者 70 名、委任状 66 名→成立。

工藤事務局長：

令和 5 年度の幹事会は年 3 回を予定、全国推進会議は 3 回を予定している。本日までに 2 回の幹事会を開催し、今回が令和 5 年度 2 回目の全国推進会議となる。前回の全国推進会議は IYEO 主催で実施し、各チームの活動状況の報告のほか、各提案と議論を行った。議決事項は IYEO 会員制度改革を取り上げ、可決した。本日からの全国推進会議でも各チームからの発表という体制をとるが、IYEO 中期経営計画の策定、IYEO 会員制度改革、ブロックイベントについてワーキンググループより報告について大きく時間を取っている。今回は 2 日間の全国推進会議、鳥取県での全国大会と盛りだくさんの内容になっている。この場に参画して下さる皆さんの行動が今後の IYEO にとって大変重要になるのでよろしくお願いしたい。

【①】中期経営計画及び会員制度改革：四役（大野事務局次長、長末会長、白木副会長、佐々木副会長、本田副会長：発言順）

a. IYEO 中期経営計画の策定(報告)

- 中期経営計画の考え方

なぜ必要か？ 目指すべき未来(中期経営計画のゴール)を定め、組織として成長して発展するため。

4 年(幹事会任期 2 年×2 期)を中期と定義し(中期経営計画 2028)、2 年の折り返し時期に見直し、最終年度に次期中期計画を策定する(中期経営計画 2032)。

- 中期経営計画 2028 の進め方

9 月推進会議で中間報告、3 月推進会議で承認を目指す。

議論は常にオープン。当事者として一緒に関わっていただきたい。

- 骨子

グローバル領域とソーシャル領域の組織化。

IYEO 全体として社会価値創造をリード。

職業経験が必要な組織経營業務をプロ組織化する。

変革に沿った体制構築を行う。

- 活動運営に関する構造

活動運営を魅力的なものにすることで、IYEO の魅力向上につなげる。

- 40 年目の大改革

時代に合わせて IYEO も変わっていかなければならない。事業のあり方、内閣府との関わりも大きく変わってきている。

IYEO が独立して運営や活動していけるような体制を作っていきたい。

- 組織ビジョン

IYEO が事業参加者や地域で活動している人たちから一緒に活動したいと思われるような団体になること。

地域や世界をフィールドに、多文化共生社会を実現するために頼られる団体になることを目指す。

- 3つのミッション

個人のキャリア形成と社会貢献の両立、社会貢献活動の当事者として場づくりやサポートを行う、活動を加速し、社会に発信する。

- 中期経営計画の全体像

グローバル、ローカル、ソーシャル 3つの領域で課題解決を目指す。

- 2028 年までに実現したいこと

全国に活動拠点があり、世界中にネットワークを持つIYEOの強みを発揮しながら、コレクティブインパクトを生み出し続ける活動団体として変革を行っていく。

- そのために 2028 年までに実行すること
組織運営や財政基盤を整備し、活動できる体制を整えていく。
- 社会にインパクトを出せる活動領域を創出し、ソーシャル活動とキャリアの両立を当たり前にする。
社会に価値を共創することを中期計画に打ち出している。内閣府への協力、同窓会組織としての活動、社会価値創造の3本柱として掲げ、社会貢献チームとしてはグローバル・ローカルなネットワークに対しどのような連携ができるか着目して計画を立てている。具体的には東海ブロックイベントを社会貢献チームと連携して実施するチャレンジャーズサミットの実施や、世界青年の船新プログラムで都道府県や事業チームと連携してワーキンググループを作り、アップデートを図るなど取り組んでいる。
コアリーダー事業はじめ会員が関わるコミュニティと連携し、グローバルリーダーをどう育成していくか取り組んでいきたい。
- グローバル領域に関して
在り方検討会でもあったが、グローバルなネットワークを使ってどう事後活動をするのかという点、それぞれの事業で同窓会を実施しているが、そこで培ったネットワークから国内外のOBOGと協力していろいろなことができるのではないかと模索している。
- ローカル分野で活躍するリーダー育成と登用
先進的な都道府県IYEOの取り組みを共有するとともに、都道府県IYEOで実績のあるリーダーに全国の場でも活躍してもらおう。
- 組織運営の簡素化
若い人材が定着しやすいよう組織運営を簡素化していく。
- IYEOの持続可能化
都道府県を軸としたローカル、参加事業を軸としたグローバル、社会貢献分野のソーシャルの3つの領域出の活動をさらに発展させて行くためにIYEOの活動を考えていくのが中期経営計画のポイントである。これを実行していく体制づくりについて考えていかなければいけない。現在はIYEOの事務局は推進センターの事後活動推進部に設置しているが、その機能を拡充してどうIYEOの活動を支えていくか考えていく必要がある。
- 組織運営の黒字化について
これまでボランティアで行ってきたことを有償化するためにはその資金が必要であるし、事業運営とセットで考えていく必要がある。
- 個人会員の統合
個人会員区分の統合と、アルムナイメンバーを新設する。将来的にアルムナイメンバーは個人会員への移行を目指す。

b. IYEO 会員制度改革(アルムナイメンバー制度開始について)(議決)

- 内閣府事業参加者がこれまではIYEO会員に登録されないとメーリングリスト等で情報提供されないという問題があった。同窓会組織として情報共有が取れることを最優先として、アルムナイメンバー制度を導入したい。
- 入会してもらうための働きかけは行っていくが、まずはネットワークづくりの導入手段として取り組んでいきたい。
- 制度開始にあたって、規約の改正とアルムナイメンバー規則の制定について議論していきたい。

- 規約改正箇所とアルムナイメンバー制度について説明

【伊藤参事官補佐】

既参加青年の活動を追う観点として、内閣府としても前向きに受け止めている。アルムナイメンバーとして無料で登録できることによって繋がりを持っていけることに関しては一緒になって進めていきたい。他方で懸念として、参加青年に関して、団体に「入る」「入らない」の選択の自由という観点から、強制的なニュアンスを含めることはご時世的にも難しい。規定上、「拒否する場合はこの限りではない」という部分が気になった。この書き方をあえてする必要はないのではないか。事後研修でどのような説明をするかは今後協議したいが、参加青年が登録に同意したという形で整理していったほうがよいのではないか。

【長末会長】

これまでの入会方法についても、「同意する」という行為をはさむことで一つのハードルがあるのではと考えているが、「同意をする」という表現を入れることは皆さんに委ねたい。

【中田国際調整官】

表現の一部を切り取って捉えられるリスクもある。伝え方として誤解を与えないような配慮はしておいたほうがよい。

【長末会長】

「登録することに同意する」とするのか、「拒否しない限り登録する」とするのか、議決で判断をしてもらいたい。

【國分静岡県会長】

アルムナイメンバー規則(青少年育成等に資する情報提供)第3条を第4条に修正した方がよい。(第3条が2つあるので)⇒事務局修正

【井上千葉県会長】

今年度参加青年にどのように案内するのか説明してほしい。アルムナイメンバー制度について反対するわけではないが、これまで入会について事前研修などで丁寧に説明してきたなかで、参加者が安易にアルムナイメンバーに流れるような紹介でなく、入会に繋がるような説明をしていただきたい。

【長末会長】

具体的にはまだ決まっていないが、メーリングリストでアルムナイメンバー制度の開始について流し、事後研修でその経緯、会員種別や入会について説明する。我々としても会員になってほしいのは大前提である。活動に巻き込んでいくことで会員になってもらえるように働きかけていきたい。

【横倉広報担当幹事】

参加青年の情報は都道府県 IYEO が提供を受け、活動への呼びかけをしている。この件については同意済みだと思うが、再度確認することは必要なのか？

今後、情報の受け取りを希望しない方の連絡先は削除し、他の方は、アルムナイメンバーとして登録にすれば良いのでは。参加青年は情報を都道府県 IYEO に提供することに同意しているから、アルムナイメンバーに同意を求めるのは反対だ。

【伊藤参事官補佐】

確かに応募にあたり、IYEOに個人情報を提供することについては同意を取っているが、ここでの同意はあくまでも「事業に参加する範囲に於いて」であり、IYEOのアルムナイメンバーになることについては同意を取っているわけではないので、別途の同意を取ることが必要である。

【亀谷近畿ブロック幹事】

地元のメンバーに話す場合、IYEO正会員、一般会員のメリットを提示することが難しいと感じている。どのように説明したらよいか？

【長末会長】

アルムナイメンバーも会員と同様にメーリングリストで情報を得て、イベント等には参加できる。会員でないとできないイベントもあり、差別化を図ることはできる。そのように説明していただきたい。

【栗原秋田県会長】

SWY31に参加したが、当時説明を受けても、学生でお金がなくてIYEOに入会できなかった。周りのIYEO会員から情報をもらって、やっぱり会員になりたいと思った。例えばGAの募集を見た時にも「会員になっておけばよかった」と思った。自分のように、周りに情報をつないでくれた存在がいたからこそ会員になるケースもあるのではと思う。今は会員になりたくてもなれない人にとって、アルムナイメンバーのような形でつなぎとめていくことは大事だと思う。

【樋口都道府県担当幹事】

税金を使って内閣府事業に参加させていただき、内閣府事業の事後活動としてIYEOの活動をしてきた。参加者全員が何かしら内閣府とIYEOとの関わりを持つことが大事で、それがあつて受入事業なども続いていけている。内閣府事業とセットで活動しているのがIYEOなので、内閣府がIYEOに入っても入らなくてもいいというスタンスだと帰属意識の低い若者は離れていく。内閣府事業を支えているのはIYEOなので、基本的には事業参加者はIYEOに入るという認識で説明をしていただきたい。

【中田国際調整官】

20年程度IYEO活動に参加させていただいている。内閣府も気持ちは一緒だが、内閣府やIYEOを社会の見る目があるため、注意しないといけないことはある。気持的には一緒だが、一般的な疑念を防ぐことが制度上必要。

【長末会長】

応募の書類のなかで、「記載した情報を事業実施のためにIYEOに提供することがある」、という書き方でなく、「事業が終わった後にIYEOに情報を登録していただく」、という説明だと矛盾しないのでは？在り方検討会で今後の活動に生かすことに注力するという意見が出ていたが、事業参加後にコミットすることは理にかなっている。内閣府にもコミットしてほしい。

【伊藤参事官補佐】

コンプライアンス的なことを申し上げてきたが、私もIYEOの活動を応援したい立場の人間である。IYEOに情報登録することを記載することはできるが、応募の段階で聞くべきことなのか、参加希望しない人には事業応募資格なしとまでするのが適切なのかは検

討が必要。アルムナイメンバー制度導入後、加入率等を検証したうえで、テコ入れが必要であれば踏み込んで応募書類に記載することも考えていきたい。

【長末会長】

在り方検討会で事業参加の経験を事後活動にいかすことに注力すべきだという意見が上っていた。その方針に従えば応募書類に記載できるのでは。

【中田国際調整官】

「事後活動をする」と「事後活動組織に参加する」ことは異なる。これまでの経緯を踏まえて判断したい。IYEOのあり方が変わろうとしているところで内閣府も変わろうとしている。もう少しご相談させていただきたい。

【大野事務局次長】

伊藤さんの指摘に従い規則の文言はそのように修正する、運用としてアルムナイメンバーは自動登録し辞退希望があれば削除する、という議論がなされた理解で正しいか。同意する、しないのチェックが必要ということか？

【長末会長】

チェックの内容が「同意します」なのか「同意しません」なのか議決によって変わってくる。

【大野事務局次長】

規則の文言は変えるとして、運用上は自動登録という形がよいのでは。これから IYEO が進歩してブランド力を高めていくところなので、予備知識がない状況で「同意する」とチェックしづらいのでは。

【伊藤参事官補佐】

「登録を希望しない方はチェック」ということには反対していない。規約上の表現の話。

【中田国際調整官】

あくまで参加しやすいような登録方法はどうしたらよいか、という話で議論しているところをご理解いただきたい。

【長末会長】

活動サポートのためにはどうすればいいかという姿勢で内閣府は考えてくれている。運用上全登録はできない。外部や当事者に説明がつくようにしておきたい。

【佐藤中国ブロック幹事】

アルムナイメンバー大賛成側という前提で意見させていただく。タイミングを分けて、応募時に IYEO への情報提供を同意する際に、アルムナイメンバーへの登録を同時に確認していただき、事業後に事後活動組織への参加として個人会員への入会を後ほど行えば誤解がないのでは。アルムナイメンバー登録同意とりつけについては「事後活動組織から耳よりのニュースレターが届きます」というようなニュアンスでも難しいか？

【伊藤参事官補佐】

応募要件として、事業終了後、参加者は全員 IYEO に登録しないといけないということまで盛り込むかは慎重に検討する必要がある。

【中田国際調整官】
段階的なことも含めて検討したい。

【菅香川県会長】
逆に対外的に見たら、なぜ応募の段階で IYEO に情報提供できるのか？

【伊藤参事官補佐】
内閣府の政策上の判断の問題。内閣府はこれまでの実績や事後活動組織としての IYEO を認め、情報提供している。しかし、IYEO はあくまで事後活動の選択肢のひとつであって、全てではないので、事業が終わってから、登録無料のアルムナイメンバーとはいえ、IYEO に加入することを強制することはもう一段階高い次元での判断が必要。

【生田関東ブロック幹事】
IYEO への加入の自動化はあってもいいのでは。事後活動組織であると同時に OB 団体なので、それを存分に活用したいと内閣府の方から話があったはず。別の団体などで並行して活動するのは自由なので、事後活動を別の団体でするのは別に良いのでは。

【議決①】アルムナイメンバー制度の開始について：第 4 条の 2 規約の文言改正
賛成 61 名、反対 4 名、棄権 1 名 で可決

【議決②】アルムナイメンバー規則について
案 A19 名、案 B39 名、反対 1 名、で案 B で可決

【②】財政：小柳財政担当幹事

a. 財政計画について

- IYEO としての財政的な課題への対応策としてサポーター制度を実施。
- 直近 4 年間赤字状況が継続、100 万円の大口寄付がなければ今年度で資金ショートしていた。現状と同じ収支が続くと、令和 8 年度には資金ショートする。活動危機が迫っている状況。
- 原因として入会金制度の変化と社会の変化があげられる。IYEO の存在価値として、国際交流で得た知見を事後活動につなげていく組織の役割や価値がある。そこに力を割くと当然お金がかかるが、組織として必要な部分。背景として入会率の低下も資金難の要因。
- 社会の変化として、20 年ほど前から海外志向が低下していたところへコロナ禍で留学生が激減、社会がコロナ以前の状況に戻っても内閣府事業の応募者や IYEO の入会率が増加することはない。これまで通りのマネタイズを進めることはできない。そこでサポーター制度の立ち上げなどを実施してきた。
- 寄付金のお願い：各チーム、各都道府県で課題感や、国際交流の価値を再認識し、IYEO の活動を活性化させていくことの重要性を共有してもらえたら。
- 単発寄付やマンスリーサポートなどの少額寄付を増やしていくことから進めていきたい。
- IYEO の存在意義や社会価値の醸成について皆さんで議論していただきたい。
- IYEO の歴史や価値について理解し、寄付集めの機運を高めるために「歴代会長トーク」を実施したい。
- 各地域やセクションで財政課題解消に向けた解決策やアクションプランについて皆さんと一緒に考えていけたらと思う。

【横倉広報担当幹事】

寄付したお金をどう使うのか議論していただきたい。会場内で寄付を募ったところ、たくさんの方にご協力いただいた。

【小柳財政担当幹事】

集まったお金の使い方としては、財政的課題として組織整備的な間接費として活用されることになるかと認識している。直接活動を行っていくための運営部分、わかりづらい部分の経費が不足している。どのようにしていけば組織全体が回っていくのか、アイデアをいただきたい。

【高下顧問】

入会金を原資としていたが、事後活動研修費へ移行した。入会率がどんどん下がり活動費や間接整備の費用が不足している。全体の運営資金が足りない。会全体を支えるために寄付を募る。マンスリーサポートの協力をお願いしたい。自分が団体を支えている気持ちになる。人に勧めるにもまずは自分が実践をしていただきたい。

【大野事務局次長】

会議出席者に対し、具体的に、誰に何をしてほしい、ということはあるか。後の動きはすべて会議参加者に委ねるということか。

【小柳財政担当幹事】

ひとまず本日参加していただいている一人一人ができることを検討していただき、それをアクションにつないでいただくことが今日の段階でできることかなと考えている。今後の方針や戦略は引き続き財政チームを中心に、各地域やチームのアイデアを盛り込みつつ、練り上げて共有をしていきたいと思う。

【薄井石川県会長】

具体的な金額を提示してほしい。どのぐらいの金額が必要で、どのぐらい集まると何ができるのかなどを数字で明確化してほしい。

【小柳財政担当幹事】

具体的には試算ベースで毎年 50 万円赤字が積み重なっている各都道府県に 2 名のマンスリーサポーターが増えれば状況は改善できる。しかし、更にプラスでの黒字を見込むためが必要。

【③】戦略：長谷川戦略担当幹事、樋口都道府県担当幹事

a. R5 年度オンボーディング

- 今年度進めている、オンボーディングプロセスについて説明する。オンボーディングとは、今年度内閣府青年国際交流事業参加青年に、IYEO について知っていただき、入会、もしくは現在進めているアルムナイメンバーとして活動に定着してもらうことを目指すプロセスである。
- R5 年度は、参加青年決定から事業終わりまで、それぞれの事業にあったタイミングで様々な活動を実施している。ちょうど開始された事業もあるが、表敬訪問等も実施いただいていることかと思う。
- 戦略チームが中心となって進めているが、社会貢献チーム、事業チーム、広報チーム、都道府県チーム、それぞれとの連携も重要となるため、ワーキンググループの立ち上げ、全体的な流れや戦略を共有しながら実施している。
- 都道府県チーム：表敬訪問や壮行会、アドバイス会の実施、事前研修においても

関東近郊の都道府県 IYEO のみなさんに参加いただいている。

- 事業チーム：エストニア団への懇談会を実施、東アでも田島幹事を中心にオンラインセミナーを開催。SWY に関しては、新しい取り組みとして、LINE のオープンチャットを活用している。近年、メールでの連絡が取りづらいという課題を都道府県の方も感じていると思う。若い青年たちにコンタクトを取りやすい形でイベントの情報発信などを行っている。また、事前研修前には、顔合わせ相談会も実施した。100 名中 70 名ぐらいが顔合わせ会には参加。
- R5 年度内閣府事業に関しては、対面での交流が再開した。
- 現在、事前研修では、60～90 分で事後活動について話す時間を設けている。今年、中国事業はオンラインのため短い、IYEO について説明をしている。
- 7 月 8 日に日韓、育成事業の事前研修に参加。参加青年に事後活動について考えてもらうディスカッションを実施。
- 9 月 3 日に SWY 事前研修参加。90 分の時間、SWYAA についての説明を含めて、事後活動について説明を実施。グループワークで在住都道府県ごとにグループを作成してもらいディスカッションを実施。研修後のアンケートでは 60%の方が満足度 4 もしくは 5 を選んでいる（5 段階評価）
- 在住都道府県にグループ分けをしたことは、今後の活動につながる可能性がある、連絡先を交換できてよかったなどのフィードバックがあった。ただし、インプットが多い部分は改善していきたい。
- 今後の流れについては、事後研修がいよいよ始まる。最初は、10 月 21 日の育成事業。アルムナイメンバーも含めて会員制度の説明を実施予定。戦略チームとしては、あくまでも正会員や一般会員など IYEO の入会者数を上げていくことを目標としたい。
- 事業によっては、今後各都道府県への地方プログラムを実施予定。ぜひ IYEO の魅力を伝え、関わりをお願いしたい。
- アルムナイメンバーへの入会フローについても内閣府と協議の上進める。また、事後研修でも IYEO の魅力の伝え方を工夫していきたい。昨年は、IYEO の豊富な人材層をアピールしていたので、人との繋がりを広げたい方は入会に繋がっていた。様々なアプローチの方法を考えていきたい。
- オンラインでの IYEO を知ってもらうイベントなども開催を計画している。
- IYEO キャリアデザインセミナーについても来年度以降の実施を検討。
- IYEO の入会率をあげようという取り組みを引き続き実施していく、皆様の知恵もお借りしながら活動していきたい。

b. IYEO Learning Program

IYEO 会員にとっての学びの場として、今年度は 2 回開催済み。

また次回、10 月 22 日に『ボリビアへのキャリアにつながる私の選択～大切にしたいキーワード～』を 3 回目として開催予定。ぜひみなさんに参加いただきたい。

【④】事務局：工藤事務局長、大野事務局次長

1. メールアドレス回収・名簿更新について

2 年ほど前から会員のメールアドレスの回収に取り組んでいる。R3 年度は、メールアドレス回収率は 42%だった。メールアドレスのなかった過去の事業参加者に対して、往復ハガキを送付するなどして、メールアドレスを回収している。昨日時点で、メール登録率は、71.2%まで上昇している。

目標については、限りなく 100%に近い状態にしたいと考えており、引き続き進めて

いきたい。推進会議に参加されている皆様におかれても、總會通知や各都道府県で連絡先変更の通知などを受信された場合は、事務局までお知らせいただきたい。

2. 公式 SNS 申請のメーリングリストについて

様々な活動においてメーリングリストを活用いただき感謝申し上げます。運用について分かりづらい点があったので再度説明を差し上げたい。

- コロナが落ち着いてきたこともあり、対面でのイベント開催が増え、申請をいただくことも増加した。事務局内で整理をし、オフラインのみ開催のイベントで開催地域が限定されるものに関しては、原則 A11 ではなく、都道府県別やブロック別のメーリングリストに配信をお願いしたい。また、ALL は多くの会員に配信されるため、申請が必要だが、都道府県別やブロック別のメーリングリストに配信の場合は、申請の必要がないのでぜひ活用いただきたい。
- ルールを定めた背景としては、自分に関係のない情報が届くため退会を希望するなど会員の声があったため、退会者を意図せず増やしたくないと考えている。こちらの注意事項に関しては、申請フォームにも明記するようにする。

3. 第 85 回全国推進会議について

今回の推進会議については、オンライン開催。

前回、対面での開催とご連絡を差し上げていたので、オンラインに変更になった旨、再度ご連絡した。日程は、3月9日(土)になるので確認をお願いしたい。

4. ブロック関係者連絡会議について

ブロックイベントの前週金曜日の夕方に実施することに変更。昨年までは、ブロックイベント開催直前の金曜日夕方に実施していたが変更となった。

ブロックイベント直前の開催だと、開催される都道府県の方々の負担となっていた。また、今年度は2ブロック合同形式での開催に変更となった。昨年までとやり方が異なるので注意いただきたい。

5. IYEO パラスポーツ振興チームの活動

IYEO ではパラスポーツの支援活動も実施している。事務局で窓口を担当したため、こちらの議案での報告とした。資料を準備しているので確認いただきたい。若い会員の方や久しぶりに活動する方などと一緒にパラ卓球の国際大会の活動を実施した。

【⑤】 広報：横倉広報担当幹事

- 広報アドバイザー有江さんの紹介
- 1年半広報担当幹事を担当させていただき感謝申し上げます。
- 広報活動に貢献した方として吉岡監査役を表彰。

【⑥】 選挙管理委員会：高下 選挙管理委員長

- 公正をはかるために選挙権のない役員が選挙管理委員会を務める
- それまでは三役の中で話し合い、会長を決定していた。

R3年に規約制定し、R4～5年の会長選出には、IYEOにおいて初めての選挙を実施した。その選挙によって選出されたのが現長末会長、高下選挙管理委員長はその前の会長。

- 今後の IYEO の方向性を決めていく中で、やる気がある方や自分が今後やりたいことを示せる方が会長になることができる仕組みを作りたいとのことで、高下会長の際に、会長選挙を実施することになった。

- 今年度 IYEO の会長の決定方法について (資料参照)

会長に立候補できるものは IYEO の経験が必要なため、経験要件について定められている。また、推薦要件もあり3名以上からの推薦が必要。

次回選挙については、R6～R7年度の会長任期に関するもの。

経験要件を満たす立候補の候補者は17名。

- 投票権については、全国推進会議で議決権を持つ者と定められており、現在この会議に出席されている方が該当する。都道府県 IYEO 会長 47 名と幹事会構成員 29 名である。
- 立候補者 1 人の場合でもマニフェストを聴く会は実施する。
- 立候補者がいない場合は、現会長の信任投票。会の運営を考えて投票する。もし不信任なら、会長の決定が困難になるため、投票権のある人が責任と義務があることを忘れずに投票を実施する。
- 投票権のある方が、責任を持った投票をお願いしたい。投票期間も十分に定めているため代理入力は想定していない。本人が本人の意志で投票する。また、投票者のメールアドレスが一致しない場合は、棄権とみなす。
- 今回は 2 回目の選挙となり、コロナ禍を経て活動が活発になっていく大切な時期、中期経営計画を定める大事なタイミングでの選挙、将来の IYEO を一緒に考えていく機会にしたいと考えている。

【⑦】都道府県：樋口都道府県担当幹事、佐々木副会長

a. ブロックイベントについてのワーキンググループより報告

- 都道府県 IYEO 会長有志や幹事を交えながら、全国大会・ブロックイベントを考えるためのワーキンググループを立ち上げ、これまで 5 回打ち合わせを実施。内容を共有する。本日のポイントとしては大きく 2 つある。
- 説明の後、ブロックごとに分かれて、幹事の方にも入っていただき、小グループで話す。疑問点やわからないことなどを聞いてほしい。また、今後のブロックイベントのあり方について、もっとこうした方が良いやこれはやめた方が良いなどのアイデアがあればシェアしてほしい。
- これまでは 8 ブロック全てで開催していたが、R5 年度から予算の関係もあり、全国大会も併せて 4 都道府県での開催となった。R6 年度に関しては、今年度と同様、山梨県（全国大会）と残り 3 都道府県でブロックイベントの開催が決まっている。
- R7 年度以降の全国大会・ブロックイベントについて、目的や開催意義、内容、開催方法について改めて見直す良いきっかけととらえ、事後活動を活発化できるイベントにアップデートしていきたいと考えている。
- 全国大会、ブロックイベントの第 1 部は内閣府主催であり、内閣府との協議は必要であるが、まずは IYEO としての要望をまとめたいと考えている。
- これからの全国大会、ブロックイベントをどうしていきたいかについて、本会議の場でも議論するが、各都道府県へも持ち帰って、話し合い、10/15 までにアンケートの回答を依頼したい。
- 全国大会、ブロックイベントの目的と意義(資料参照)
人材育成／社会貢献、事後活動の場、ネットワーク形成連携を高める場など大きく 3 つをワーキンググループでも検討した。
上記は決定事項ではなく、このようなイメージが当てはまるのではないかと提案したもの。
- アンケート内容
どういうものが良いのか開催方法についていくつか提案をしている。全国大会、ブロックイベントは切り離せるものではなく、どちらともブロックごとに順番で回しているもの。ブロックイベントは、ブロックごとに開催してきたが、ブロックでや

る意義があるのかといった点や他の枠組みで実施することも視野に入れた提案をしている。

プランA: 全国大会は対面で実施したい／ブロックイベントの開催頻度を調整

A①: R5年度と同様の開催方法

数の多いブロックと少ないブロックで開催頻度に差がある。

A②: 6都道府県以上のブロックは毎年開催、5都道府県以下のブロックは2年に1度開催

ブロックごとによる開催頻度の格差は少なくなる。

プランB: 各ブロック、毎年開催したい

B①: R4年度以前と同様に開催

予算に変更があってもR4年度以前のやり方で実施できるよう内閣府に依頼する

B②: 全国大会を実施、推進会議はオンライン実施

推進会議をオンライン実施することによって経費を抑え、ブロックイベントや全国大会を実施する。

B③: 全国大会を廃止、8ブロックイベントを毎年開催する、推進会議はオンライン実施

プランC: まったく新しい形で全国大会、ブロックイベントを実施する

ワーキンググループではデメリットが多く出てきたが、メリットを優先するという考えもある。

- ワーキンググループからの提案
- 内閣府事業の受け入れ基盤の維持にもつながるため、ブロック単位での実施を継続する。ただ、企画に社会貢献チームや事業担当チームが関わることも可能とし、分科会を担当するなど役割を分担する。他のチームとも一緒にブロックイベントを盛り上げていくことができるのではないかな。
- ブロック単位での実施を継続する。前年度の内閣府国際交流事業参加者が分科会などの企画をすることを必須とする。ただの帰国報告ではなく、事後活動としてグループを立ち上げ活動してもらおう。これまでは、内閣府事業参加後に「ブロックイベントにも参加してください」という案内だったが、事後研修の一環として、ブロックイベントの企画までが事業参加というように示すことができるように内閣府と協議していきたい。内閣府事業の広報にもつながるため、ぜひ内閣府にも協力いただきたい。
上記を実施することによって、地域との繋がりもできると思う。IYE0への入会の有無に関わらず、事後活動があるのだということ認識する良い機会になるのではないかと考えている。
- 今後について
アンケートに回答いただきたい。また、この後のグループワークでは、ブロック幹事のみなさんにメモを取っていただきたい。2月の幹事会で提案し、3月の全国推進会議では議事提案として提出をする予定。

プランDの提案（佐々木副会長）

プランCのメリットの部分ももう少し深く考えると良いものができるのではないかと思います、プランDを提案する。

手上げ方式で全国大会、ブロックイベントの開催を決定。

採択基準として、若手育成枠、都道府県 IYE0 の枠、R4 年度の全国大会のような大規模枠などをそれぞれ設けることで、より大規模な全国大会やブロックイベントが実施できるのではないか。

- 各ブロックに幹事も入り、10 分間グループワークを行う。

【佐藤ブロック幹事】

これからの話し合いは、ブロック幹事がアンケートに回答するのではなく、各都道府県会長が都道府県に持ち帰り回答するのか？

【樋口都道府県担当幹事】

アンケートは、各都道府県会長が回答する。この場での話し合いは、話すことで新たなアイデアが出ることもあるので、それも参考に都道府県に持ち帰り、ミーティングを実施してほしい。

【大野事務局次長】

前年度事業参加者が企画「必須」というのは昨日の議論と同様、伊藤さんに了承いただけないかも知れない。

【伊藤参事官補佐】

「内閣府青年国際交流事業に参加したからには、ブロックイベントに参加してください」という案内がこれまでできていなかったのは、おっしゃる通り。内閣府の事業なので、各自が参加添いやしやすいブロックイベントにぜひ参加してくださいと呼びかけをすることは可能。他方で、今まさに議論していただいているように、ブロックイベントの開催は流動的、少なくとも来年度は4ブロックでの開催であり、アクセスのしやすさも人それぞれ。参加青年にそれぞれ事情もあるので、必須で企画に参加してくださいと内閣府から強制することは難しい。そのため、事後活動に参加してくださいという流れの中で、ブロックイベントについて紹介し、近くのブロックイベントに参加してくださいとお伝えすることはできると考えている。

【樋口都道府県担当幹事】

昨日も本件についてお話しさせていただいた。資料の書き方が、しなければならないという書き方になってしまっているが、呼びかけをするということだけでも大きいと思う。令和7年度以降どのような可能性があるかは3月までに検討したい。

10月15日までにアンケートの回答を依頼する。

また、各都道府県会長は都道府県に持ち帰り、意見の集約をお願いしたい。

b. 各ブロックイベント告知：佐々木副会長

1. 大分県：田中会長

九州ブロック大分県で12月3日に実施。残り2か月ほどで開催。

大分駅近くの会場を手配済み。大分県では、世界船のOBの方が40年前に立ち上げられた、少年の船というプログラムがある。事後活動の一環として、できるだけそちらに企画することが続いている。この続けてきた事業について、IYE0のブロックイベントで知っていただきたいということで、高見大介氏（日本文理大学 人間力育成センター センター長）に基調講演を依頼している。また、2019年、2022年のハイブリッドも大分県で受け入れを実施している。分科会では、世界船のリレートークを予定。

また、大分県では技能実習生が在籍している企業が増えている。大分県での外国人労働者の現状を共有したい。さらには、家族帯同で日本に来日した際に、日本語が話せない子どもたちの義務教育支援についても分科会で取り上げたい。

第2部では、世界船の大規模同窓会の実施を計画している。かつて、さまざまなお土産を持ち寄って、会場で販売することも行ったが事例があったが、今回も実施を検討。売上をIYEOに寄付することも視野に入れて準備を進めたい。

2. 秋田県：栗原会長

2019年度に世界青年の船事業に参加した。会長に就任したばかりで、推進会議があるということで参加。ブロックイベントも開催するとのことで少し不安がある。みなさんに色々教えていただきながら、イメージが広がってきた。

1月20日に秋田県でブロックイベントがオンラインにて開催される。オンラインのため、全国の皆様にぜひ参加いただきたい。今回は、地域性と国際性ということテーマに、秋田の魅力を出しながら、IYEOの活動を活かしていけるのかを秋田のメンバーと考えている段階。今回は、オンラインで開催だが、参加者のみなさんに何か秋田を感じてもらえる工夫をしたいと考えている。秋田といえば、日本酒が美味しい。そのほかにも味噌や醤油などの発酵の文化が根強く残っている。とにかくオンラインでも秋田を感じてもらえるように、秋田のものを参加者の皆さんに事前に発送し、食べながら参加いただくなども考えている。

本業で映像制作会社に勤めている、4年越しのドキュメンタリーを作成している酒蔵さんがユニークな取り組みをしているので取り上げたいと考えている。ぜひオンラインで参加いただけたら嬉しい。

3. 愛知県：白木副会長

河尻幹事が東海ブロックイベントの実行委員長だが、本日は代わりに説明をする。東海ブロックイベントは、グローバルユースチャレンジャーズサミットということで、昨年に続き、愛知県名古屋市を会場に3月16日に開催する予定。

今回はチャレンジャーたちの夜明けということで若者たち、高校生、大学生、若手社会人のチャレンジャーが生み出す現場というのはどういうものなのかをテーマに、アート、ソーシャル、ローカル、グローバル、政治などの各分野のチャレンジャーをお招きして、チャレンジャーたちが生まれていくメカニズムやどうしたら次のチャレンジャーを目指していけるのかについてパネルディスカッションや分科会を開催する。

昨年度からの発展的なところとしては、今回内閣府事業の報告会を第一部で開催するが、トビタテ留学ジャパンや経産相の海外派遣プログラム、東海4県で同じように、公的なプログラムで海外に出た青年たちにも声をかけている。そのような海外に派遣するプログラムの参加者が東海中から一堂に集まる報告会とブース交流会を実施予定。

昨年度110名参加だったが、今回は会場を300名規模に拡大しており、グローバルなことを志す、高校生、大学生たちが揃って年1回この会議に来ることを楽しみにしていただいて、様々な国際交流事業が非常に魅力的なプログラムであることを伝えられる場になればと考えている。

コンセプトとしては、チャレンジャーとそれを支えるチャレンジャーサポーターたちが一同に集まる会である。ぜひ東海地域以外の皆様も3月16日に愛知県名古屋市にお越しいただきたい。

4. 山梨県：村松理事

昨日、鳥取県の柿本実行委員長より昨年より準備を進めたというお話があった。大変なご苦勞があったと思うので、この場を借りてお礼を申し上げたい。

1年をかけて準備していきたいと思っており、来年の10月に皆様とお会いできることを楽しみにしている。

来年度の全国大会は10月で日程の調整を進めている。

【⑧】事業：滝川事業担当幹事

全事業についてまとめて報告を実施する

- 全事業共通して、4年ぶりに日中事業以外の対面交流が再開された。全事業において、事業の運営に協力をしている。その中でも同窓会としてどのように活動しているのか、それぞれの事業について説明したい。
- 東ア：今年度参加青年に対しての実行委員会による、事前研修から事業までのオンラインセミナーを開催予定。今年度事業参加者へのフォローアップを実施。今年度は、日本・ASEAN友好協力50周年となっており、記念として共同事業を実施しようとASEANの各OB組織と協議中。具体的には決まっていない。
- 世界船：同窓会組織として活発に活動中。9月9日にオマーン大使館での勉強会を実施。今年度のGlobal Assemblyもオマーンで開催される。派遣者も決定済み。今年度事業参加青年向けにも事前研修前にオンライン交流会を実施。今後は、10月14日にSWY Connect!2023をオリンピックセンターで開催予定。また、今後大使館や友好協会との連携を目指すSWYチームの発足を予定している。
- 育成：コアの事業が吸収されているので滝川幹事が育成を併せて担当している。今年度事業参加青年に対しては、IYEOとしてのOB懇談会を実施。ドミニカ団の懇談会には日本に滞在しているOPYも参加していただき、ドミニカ共和国についてもレクチャーいただいた。エストニア団については、政府でのIT活用についてもお話しいただいた。来週から派遣が始まるので、終了後は、参加青年の報告会の実施を検討している。
- 日中：事業の開催時期が他の事業とは異なり、ようやく日本参加青年が決定した。参加青年向けのセミナーやイベントを企画する予定。また、中国派遣団同窓会が年明け2月24日に実施が決定した。
- 日韓：第19回日韓交流連絡会議が9月16日と17日にソウルで開催された。日本人16名、韓国人20名の合計36名が参加。2020年から2022年までのオンライン事業参加者も8名参加しており、OB組織としても役割を發揮している。今年度の事業も始まるため、事後活動について伝えていきたい。

【⑨】社会貢献：伊勢社会貢献担当幹事

a. R5年度SWY寄港地活動について、IYEOワーキンググループより報告

- 社会貢献チームの活動、大枠について先に説明をさせていただき、ビジョン等の詳しいことに関しては、昨日の中期計画の白木副会長の発表を参考にさせていただければと思う。
- 社会貢献がなぜ生まれるのかという背景を説明する。これまでは、内閣府国際交流事業に参加した青年は任意ではあるが、都道府県をベースに活動する、もしくは出身事業で活動することの2つがベースになっていた。しかしながら、都道府県や出身事業の活動では網羅できない課題が出てきている現状がある。
- 時代や社会の変化により社会課題の解決が地域社会の解決になるなど、様々な動き

が活発化してきた。私たちも社会貢献や社会課題の解決などに事後活動として取り組む人が増えてきたため、IYEOとしても新たに分野を立ち上げようという話があり昨年度からスタートした。

- 昨年度はどのように取り組んでいくのかの話し合いのタイミングだったが、今年度は実際に活動も開始している。
- 2年間 IYEO 未来創造会議を実施し、その中で出てきた若者のアイデアでキャリア教育や外国人児童支援などの活動、被災地支援などの活動が社会貢献の領域に入っている。
- キーワードは「ソーシャル」。社会課題や地域課題の解決に向けた活動。
- 今年度社会貢献チームは何をしているのかを報告したい。社会貢献を取り入れながら、これまで実施してきた活動をアップデートしている。
東海ブロックイベント：先ほど説明したとおり。
新 SWY プログラム：SWY ワーキングチームを発足させて、内閣府と IYEO が協働で事業を進めている。新しい寄港地活動としてやり方が変わってきている。地域実践プログラムとして、高知県では4日間寄港地活動を実施する予定。今年度からの事業は従来の事業とは全く異なる。詳細は、それぞれのワーキンググループのメンバーから報告する。そちらを R6 年度の受け入れ検討の参考にしていただけたらと思う。
グローバルリーダー育成：白木副会長が関係する団体で、経済産業省の事業を受託。東海地区の若手グローバルリーダー育成向けの海外派遣事業を実施予定。IYEO のネットワークを活かして、スタッフや講師を IYEO 会員へ仕事として依頼するなどの活動を実施している。
- 新規会員向けの活動としては、オンボーディングについて、研修などを戦略チームと連携しながら金澤幹事が担当。
既存会員にどのような方がいらっしゃるのかという整理を河尻幹事が担当。
- 活動団体向けには、社会貢献定例ミーティングを実施し、どのようなニーズがあるのか、どのようなことができるのか、などをヒアリングして進めていきたい。
- 来年度以降の取り組みを予定している。

新 SWY ワーキンググループからの報告

1. 高知県：佐々木副会長

- 新 SWY ワーキンググループは、社会貢献の白木副会長を筆頭に、都道府県チーム、事業チーム、事務局、戦略などいろいろなところから参加しワーキンググループを構成している。
これまでの事業と大きく違うのは、30 人×10 コースというこれまでの地方受け入れとは異なる規模である点、もう1点は、スピード感。通常であれば1ヶ月前に日程表の提出が求められるが、7 月にはファシリテーター会議や日本参加青年の事前研修があるため、それまでに日程表の作成が必要。そのため、7ヶ月前にはほぼ日程を決定する必要がある。10 コースの日程を作成するためには、一部地域だけでなく、県全体、広範囲に渡って様々な関係施設との連携が必要。
高知県前田会長は、1月からこのプログラムの作成のために日本からローマまでの距離をすでに移動されているとお伺いしている。そのぐらいのボリューム感がある。
- 具体的な日程については、資料参照。10 コーステーマごとにスケジュールを作成している。
- 高知県では、8月にプレ大会を実施しており2月のプログラムに生かす予定。実行委員会で勉強会を実施している。

2. 京都府：工藤事務局長

- 受入れスタイルが各寄港地によって異なる。

京都府に関しては、京都府 IYEO 会長がお休みしており、活動ができていない状況ではあるが、京都府の自治体が受け入れを希望したため、IYEO ではない組織（自治体中心）に受け入れが行われる予定で、工藤事務局長がワーキンググループを担当している。

- 寄港地は京都府北部。訪問場所等については、現在自治体が調整中。IYEO ワーキンググループとしてはサマリーフォーラムなどのお手伝いをする予定。受け入れのアテンド等も行う。
- 京都府実行委員会と通訳 10 名ずつを IYEO にて探している。
- 秋口には実行委員会のキックオフを実施予定。

3. 兵庫県：本田副会長

- 兵庫県の受入れスタイルは、IYEO メンバーが所属する団体を中心に、地域で課題解決に取り組む活動の中核となる人たちが集まって実施する形。
実行委員会の 10 名中 7 名が地元で何か社会課題解決を行っており、元々淡路出身の方もいれば、移住して取り組んでいる方もいる。みなさんユニークな方々で、新しい受入れの形ができつつあると認識している。
- しかしながら、7 名の方々は、地元のソーシャル分野の課題解決では経験豊富だが、国際交流の経験はないため、300 名規模の青年の受入れ経験はない。その点については、IYEO の経験が生かされる。
- 3 日間のプログラムでは、初日は淡路島を知る、2 日目に理解を深める、3 日目は、学びのシェアの場を準備、知事が来られる想定をしているが未定。
プログラムの作り方は、ソーシャル分野の方はとても上手い。IYEO も他団体との連携で学び合うことができる。
- 課題は、ソーシャル分野で活動している人たちは、ご自身でビジネスを起こしているので、従来の IYEO のボランティアでの活動のように少ない謝金で、活動の優先度を上げてもらうことが簡単ではない。IYEO がソーシャル分野の活動を広げたいためには、大きなヒントになるのではないか。
- 新しいチャレンジとしては、淡路島は港が小さいため、タグボートで何度か往復する、神戸港からバスでの移動なども配慮が必要。そのような実行委員会が経験をもたない部分を、IYEO ワーキンググループが中心となってフォローしている。

熊本県浜元会長：（議長あいさつ）

不慣れな進行であったが、皆様のご協力により、無事に会議を終えることができた。昨日から 2 日間に渡り、大事な議題があり、今後の IYEO について考える機会もあったため、私自身もしっかりと考えたい。各都道府県に持ち帰り、議論できると良いのではないか。午後は、全国大会ということで楽しみに過ごしたい。お礼を申し上げる。

有吉ブロック幹事：（議長あいさつ）

初日は議論が活発になり時間が長引いてしまった。内閣府の皆様にも意見を出していただき活発な議論ができたのはよかった。自身でも多くのことが変わってきているなど実感している。ブロックイベントについても皆様がわからないまま、多くのことが変わっていくのは避けたいので、宿題もあるが、ブロックイベントの今後についても各都道府県で話し合っただけだったらと思う。この後の全国大会を楽しみたいと思う。2 日間ありがとうございました。

IV. 閉会

以上

<p>議長 日本青年国際交流機構 九州ブロック幹事 有吉 美幸</p>	<p>有吉 美幸</p>
<p>議長 熊本県青年国際交流機構 会長 浜元 里菜子</p>	<p>浜元 里菜子</p>
<p>議事録署名人 日本青年国際交流機構 中国ブロック幹事 佐藤 孝志</p>	<p>佐藤 孝志</p>
<p>議事録署名人 三重県青年国際交流機構 会長 金信 尚幸</p>	<p>金信 尚幸</p>